

ようこそ、持続的共発展教育研究
センターの教育プログラムへ！
-新しい学理、教育、そして人材を生み出す-
Welcome to Education Program by
“Education and Research Center for
Sustainable Co-Development”(SusCoDe)
-Generation of new scientific principle,
education and human resources-

「科」の「学」だけでは、環境問題に対応できない

Miscellany of detailed academic disciplines cannot solve environmental issues.

- 環境問題 = 自分たちの周辺の問題（の総合）

The environment is a series of problems around ourselves.

- 「環」：まわり、「境」：さかい
- 様々な事象が分野横断で複雑に結びついている
- 実験室やシミュレーションの結果がすぐ通用するわけではない

- 細分化された個別学問分野では視野が狭い

Detailed discipline's perspective is narrow.

- 固有の視点から鋭利な分析を提供できる場合も
- しかし的外れな視点になることも。分野間相反も

- 大学に閉じこもっていてはそれを実感できない

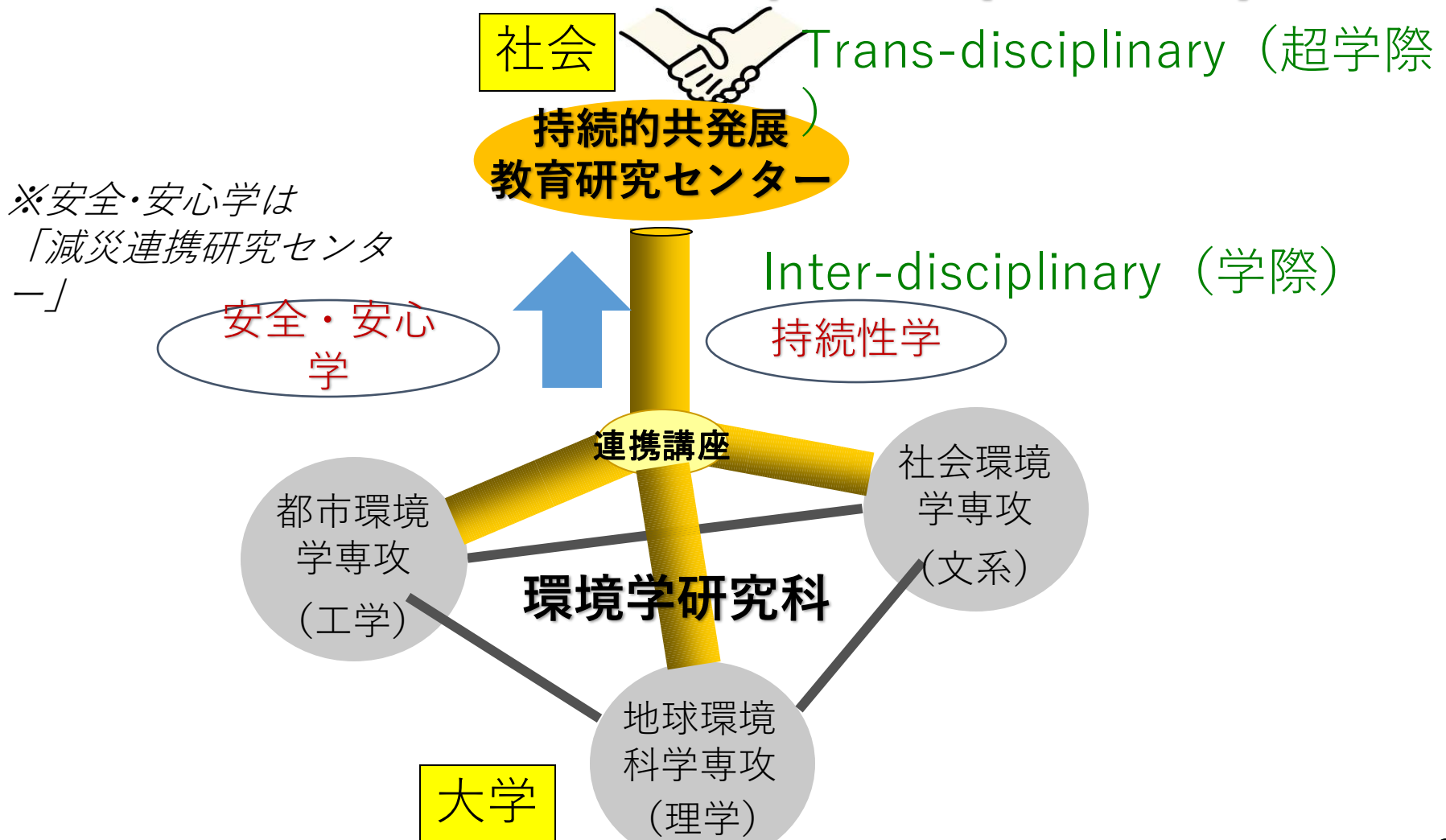
We cannot feel it inside university.

- その方が論文は書けても社会と乖離。環境学としてどうな

持続的共発展教育研究センターの位置づけ

- From triangle to tetrapod -

Positioning of “Education and Research Center for Sustainable Co-Development”(SusCoDe)



共発展センターの教育プログラムで何が得られるか？

What do you get by joining our program?

Exiting! Interesting! and Cool!

- コミュニケーションが得意になる（対人、対自然）
- 異分野・一般社会での知り合いが増える
- 視野が広がる
- 日本のことがわかる

すなわち「俯瞰力」と「現場力」

- 「ただの博士・修士」は上記のスキルは不要
「何か新しいことをやらかす博士・修士」になる
- 「専門の研究者」以外のキャリアパスを拓く
究極の狙いどころは「起業家」「政治家」の輩出
つまり、世の中をいい方向に変える人！
いま、世界がそういう人を求めています！

6 研究科連携ESDプログラム

Nagoya University Education for Sustainable Development Program by 6 Graduate Schools

<http://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/>



**SD（持続可能な発展）に関係する、6研究科の約60の授業科目
→ 他研究科の授業も受講でき、単位取得可能**

6 研究科連携 ESDプログラム

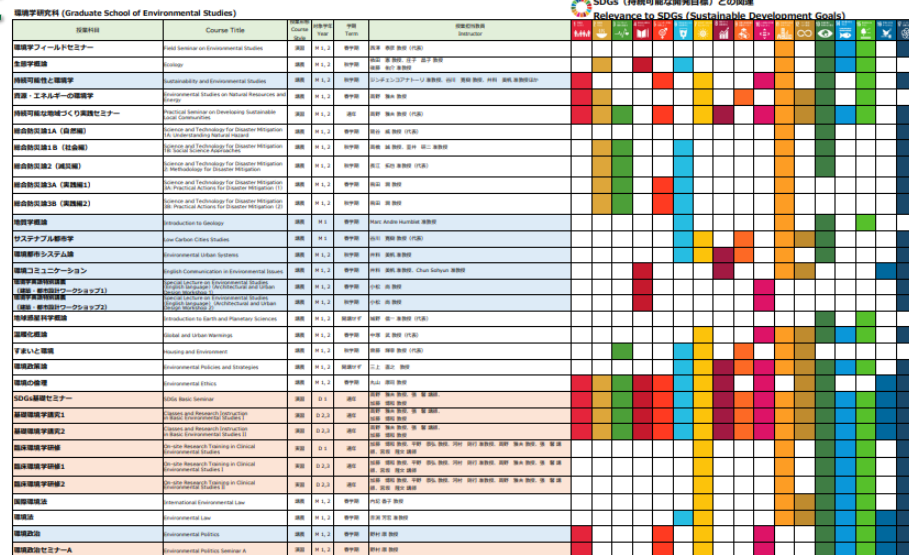
Education for Sustainable Development

https://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/pdf/sdgs/ESD2025_SDGs.pdf



(SDGs: Sustainable Development Goals)

あらゆる貧困を撲滅し、誰一人取り残すことなく持続可能な社会へ変革するための、2030年にむけた17のゴール。
2015年に国連が採択。



経済学研究科 (Graduate School of Economics)										
経済学実習ワークショップ (英語・環境・経済成長)	英語	HL 6.1	必修科目	-						
開発経済論	英語	HL 2	必修科目	HL 2 選択科目						
労働経済学A	英語	HL 6.1	必修科目	HL 6 選択科目						
労働経済学B	英語	HL 6.2	選択科目	-						

生命科学研究科 (Graduate School of Biogricultural Studies)									
生物資源学専攻	農学	農・1	農産物生産学						
環境環境学専攻	農学	農・1	環境学	環境学専攻					
森林生物学専攻	農学	農・1	森林学	森林学専攻					
森林社会学専攻	農学	農・1	森林学	森林学専攻					
森林資源産業化専攻	農学	農・1	森林学	森林学専攻					
工学専攻	工学	工・1	工学	工学専攻					
工学系生命科学研究科	工学	工・1	工学	工学専攻					
農学系生命科学研究科	農学	農・1	農学	農学専攻					
生物材料工学専攻	工学	工・1	工学	工学専攻					
機械材料力学専攻	工学	工・1	工学	工学専攻					

人文学院研科 (Graduate School of Humanities)												
考古学国际课程ⅠⅡ	Advanced Seminar on Archaeology (I)	课程	M 1, 2	李学海 Liu	600	600	600	100	600	600	600	600
考古学国际课程ⅡⅢ	Advanced Seminar on Archaeology (I)	课程	M 1, 2	李学海 Liu	600	600	600	100	600	600	600	600
文化遗产学课程 I	Research on Cultural Heritage	课程	M 1, 2	张其成 Zhang	600	600	600					
文化遗产学课程Ⅱ	Studies in Cultural Resources I	课程	M 1, 2	李学海 Liu	600	600	600	100	600	600	600	600
文化遗产学课程Ⅱa	Studies in Cultural Resources IIa	课程	M 1, 2	张其成 Zhang	600	600	600	100	600	600	600	600
文化遗产学课程Ⅱb	Studies in Cultural Resources IIb	课程	M 1, 2	张其成 Zhang	600	600	600	100	600	600	600	600

環境学研究科 研究科内研究インターンシップ 参加学生募集！

環境学研究科では文工理のさまざまな研究室が多様な研究プロジェクトを行っています。
他研究室・他専攻の研究プロジェクトを体験できるのがこのインターンシップです。

1つの分野を極めればOKという時代ではありません。異分野の研究にふれることは将来のキャリアに必ず役立ちます。

研究科内の20名あまりの教員が、自分の研究プロジェクトへの参加者を募集しています。指導教員の承認を得た上で、他研究室での研究活動を体験します。30時間の従事で共発展センター長名の履修証明書を発行します。90時間の従事で「インターンシップ」単位として認められます。ふるってご参加ください。

研究テーマの例 他にも多数あります

受け入れ教員 研究テーマ 手続き方法 →
研究科内研究インターンシップ Web サイト



地球の変動 / 地震波速度構造の時間変化に関する研究



震災復興 / 東日本大震災後の復興プロセス



河川の生態 / 河川水生生物の採取と同定・分類・環境変動に対応した水生生物多様性評価



森林の生態 / 地中レーダーを用いた森林の根系評価



木材利用 / 木材資源の地産地消を推進する仕掛けづくり



都市計画 / 21世紀にふさわしい環境配慮型の都市・地域計画のためのフィールドサーベイ



公共交通 / 地域公共交通計画づくりに関わる現地調査やデータ集計・解析によるニーズ調査



建築環境 / 全館空調式住宅の住まい方



問い合わせ

internship@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp

研究科内 研究インターンシップ

- 様々な分野の研究室がある環境学研究科の他研究室の研究プロジェクトに一時参加することが可能
- 所定の時間従事すれば、履修証明書や単位が得られる

※主指導教員の許可が必要

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/post.html>

「共発展 インターン」で検索

Join us in tackling local challenges in the field!

Education and Research Center for Sustainable Co-Development presents

Clinical Environmental Studies Program

All doctoral students of Nagoya Uni. can take this program.

臨床環境学プログラム *Clinical Environmental Studies Program*

昨年度までは統合環境学特別コース *Integrated Environmental Studies Course*

- ◎博士後期課程向け。環境学研究科はもちろん、全学どこからでも参加可能
- ◎異分野の学生・教員とともに、環境問題について多角的に考えることができる
- ◎持続的共発展教育研究センターが提供

「臨床環境学[®]」は、名古屋大学の登録商標です

臨床環境学プログラムの授業（後期課程）

Doctor course program of Clinical Environmental Studies (ALL: Japanese and English)

•On-site Research Training (ORT): 臨床環境学研修 (3 credits)

国内のフィールドにおいて、異分野の教員・学生から成るチームが、問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。

•On-campus Seminar: SDGs基礎セミナー (2 credits)

臨床環境学とは何か、また持続可能な開発とSDGsの基礎的内容を学ぶとともに自身の研究テーマがSDGs達成にどう貢献できるかを考える。



ORTの日程

月	行事	内容
4月下旬	立ち上げ会合	概要説明、グループ分け
5月	準備会合	各個人の興味に応じた対象地域に関する発表
6月	定例打合せ	現地見学会の準備
6～7月 (宿泊)	現地見学会 (スタディツアー)	現地を訪問し調査・ヒアリング
6～12月 (毎月 1回程度)	個別調査・分析	各グループで個別に実施
	定例打合せ	各グループの進捗状況確認
12～3月 のどこか	現地報告会	地域の皆様に研究成果を見ていただくとともに議論し、今後の調査研究へつなげる
2～3月	最終報告書作成	報告書として形に残し、地域にも手渡す

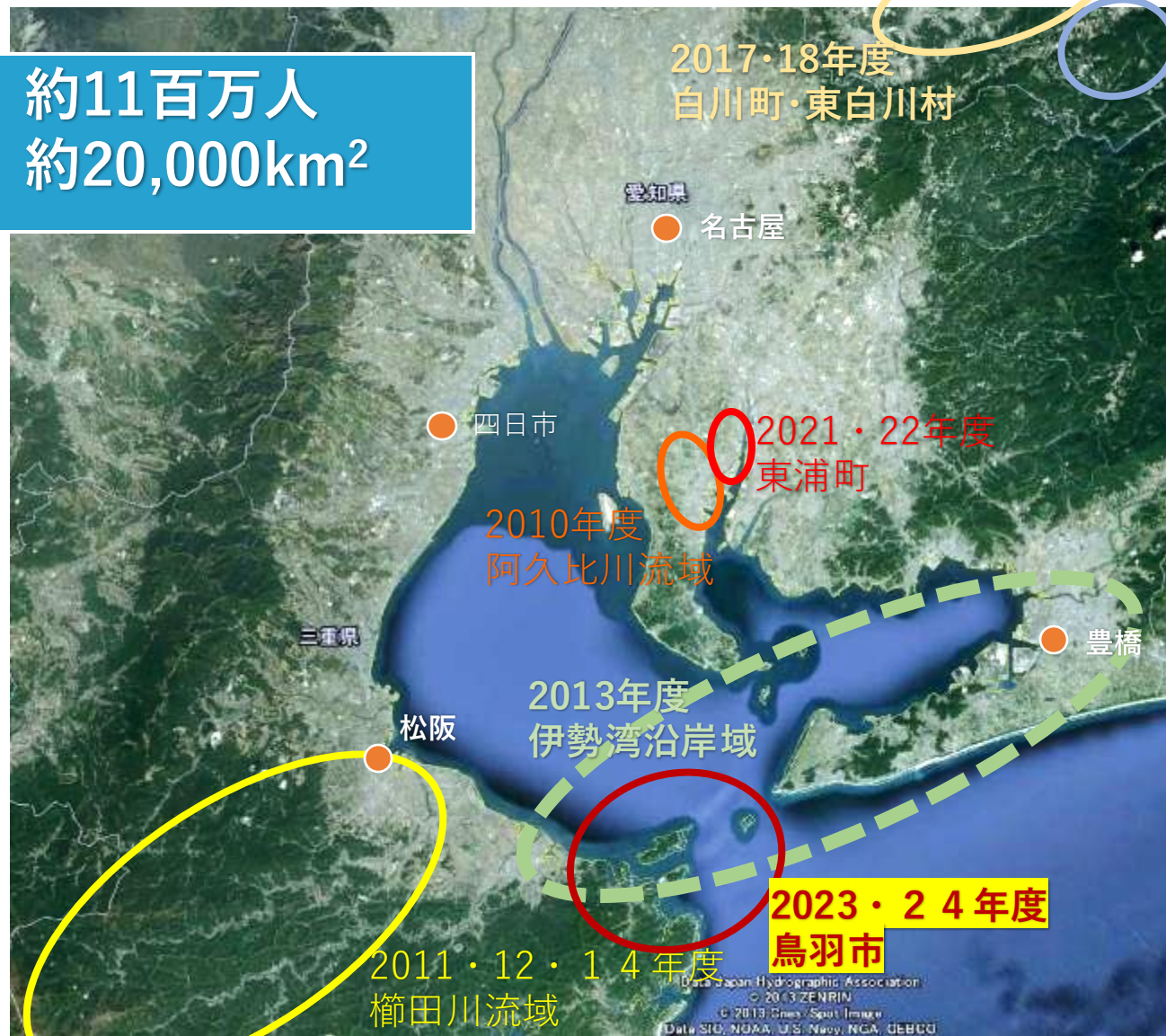
ORT Schedule

月	行事	内容
Late April	Start-up meeting	Overview of this class, Group division
May	Preparation meeting	Presentations on the site tailored to individual interests
June	Regular meeting	Preparation of study tour
June or July (3days)	Study tour on the site by all members	Visiting the site and conducting surveys and interviews
June to December (every one month)	Individual surveys and analyses	Conducted individually for each group
	Regular meeting	Checking the progress of each group
December to March	On-site report session	The research results will be shown to local people, discussed, and used to guide future research
February to March	Creation of final report	The results will be compiled in a report and handed over to the local community

伊勢湾流域圏（愛知・三重・岐阜・長野県）

Ise-bay bioregion

- 人口 約11百万人
- 面積 約20,000km²



2019・20年度
木曽町

2015・16年度
恵那市

2017・18年度
白川町・東白川村

愛知県
名古屋

四日市

2021・22年度
東浦町

2010年度
阿久比川流域

三重県

松阪

2013年度
伊勢湾沿岸域

豊橋

2023・24年度
鳥羽市

2011・12・14年度
櫛田川流域

Data Japan Hydrographic Association
© 2013 ZENRIN
© 2013 GeoEye/Spot Image
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

2019・20年度ORT(木曽町) Group & theme

<メンバーの専門分野>

2019年度

- ・ 交通計画(留)

2020年度

- ・ 社会環境学(留)
- ・ 生物学
- ・ 交通と環境(留)

<選択したテーマ>

**移住者と元の住民
との交流**

*Communication
between residents
and immigrants*

**木質バイオマス活用
に関する学校教育**

*Education with
woody biomass*

※2020年度はオンラインで実施（遠隔診療）

2021・22年度ORT(東浦町) Group & theme

<メンバーの専門分野>

2021年度

- ・都市気候(留)
- ・コンクリート工学(留)

2022年度

- ・森林生態生理学
- ・農業技術普及(社)
- ・地域自治・住民自治(社)

<選択したテーマ>

**ため池の
保全と活用**

Reservoir

竹林の管理

Bamboo grove

2023・24年度ORT(鳥羽市) Group & theme

<メンバーの専門分野>

2023年度

- ・ 公共図書館設計(留)
- ・ 古生物学(留)
- ・ 環境教育・ESD(留)

- ・ 都市・交通計画

2024年度

- ・ 交通計画
- ・ 自動車工学(社)
- ・ 地理学

<選択したテーマ>

**外国人観光客の
特徴把握と増加策**

*Inbound
tourism*

**旅館送迎バスの
一元化と活用**

Bus utilization

**生ゴミの堆肥化と
ノリ養殖への活用**

*Sound material-
cycle society*

2023年度最終報告会（2024年2月19日開催）

Final report conference in Toba city



日時：2月19日（月）14:00～

会場：鳥羽市役所本庁舎3階 第2.3委員会室

申込み・
参加費不要

プログラム

- | | | |
|-------|--|---|
| 14:00 | 開会・開催挨拶 | 中村 欣一郎（鳥羽市長）
横山 智（名古屋大学大学院 環境学研究科長） |
| 14:10 | 「臨床環境学」研修（ORT：On-site Research Training）について | 宮坂 隆文（名古屋大学大学院環境学研究科 講師） |
| 14:20 | 地域の足を確保するための新たな交通サービスの提案 ～相差町を事例に～ | 博士後期課程学生：佐藤 千江、市村 駿汰 |
| 14:40 | 三重県鳥羽市を訪れる外国人観光客の特徴・動機・評価 | 博士後期課程学生：Adella Anfidina Putri、Hu Jiayu、Li Qingyi |
| 15:20 | ポスターセッション | |
| 16:00 | 意見交換会 進行：加藤 博和（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）
テーマ：住む人も訪れる人も楽しいまち「鳥羽」を目指し、何ができるか | |
| 16:55 | 閉会・閉会挨拶 | 高野 雅夫（名古屋大学 環境学研究科
附属持続的共発展教育研究センター長） |

司会進行：山下 博美（名古屋大学大学院環境学研究科 客員教授）



主催：名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
協力：鳥羽市
どなたでもどなたでも、お気軽にご参加ください。
問い合わせ：持続的共発展教育研究センター事務局（張）TEL: 052-747-6547



2024年度最終報告会（2025年2月17日開催）

Final report conference in Toba city



2024年度名古屋大学院生
鳥羽市ORT報告会

～生ゴミからノリへ！？
鳥羽ならではの資源循環を考えよう～

日時：2025年2月17日（月）14:00～ どなたでも、お気軽にご参加ください。
会場：鳥羽市役所本庁舎3階 第2.3委員会室 申込み・参加費不要

プログラム

14:00	開会・開催挨拶	中村 欣一郎（鳥羽市長） 横山 智（名古屋大学大学院 環境学研究科長）
14:10	「臨床環境学」研修（ORT：On-site Research Training）について	宮坂 隆文（名古屋大学大学院 環境学研究科 講師）
14:20	鳥羽市における生ゴミ堆肥化事業の現状と課題	博士後期課程学生：岩月 健吾
14:35	生ゴミ堆肥と鶏糞堆肥に含まれる栄養塩の比較調査	博士後期課程学生：三輪 晃司
14:50	生ゴミ堆肥のノリ養殖への活用における資源循環フローの検討および受容性の調査	博士後期課程学生：落合 真由
15:20	ポスターセッション	
16:00	意見交換会 進行：加藤 博和（名古屋大学大学院 環境学研究科 教授） テーマ：～生ゴミからノリへ！？ 鳥羽ならではの資源循環を考えよう～	
16:55	閉会・閉会挨拶	高野 雅夫（名古屋大学大学院 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター長）

司会進行：山下 博美（名古屋大学大学院 環境学研究科 客員教授）



主催：名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
協力：鳥羽市

問い合わせ：持続的共発展教育研究センター事務局（張）TEL: 052-747-6547



今年度（2025）ORTフィールド



一宮市（愛知県）
Ichinomiya city





求む！ 地球と地域を救おうとする
高い志と強い意志をもった学生

We expect the participation of students with high motivation and strong will. Let's tackle!

持続的共発展

検索

共に創る 持続可能な社会

途上国と先進国 自然と人間 農山漁村と都市 大学と社会



<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>

質問・相談は、こちらへどうぞ。

If you have any questions or consultation, please contact us.

持続的共発展教育研究センター 事務局 (加藤・宮坂・張)

Education and Research Center for Sustainable Co-Development
(H.Kato, T.Miyasaka, X.Zhang)

TEL: 052-747-6547

cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp